

山本五十六の生涯

人類は太古の昔より紛争解決の手段として、最終的には暴力に頼る行為を用いてきた。残念ながらその本質は科学文明が進化した今も全く変わっていない。むしろ進化すればするほど結果的により大きな犠牲が強いられてしまう。戦争ほど恐ろしいものはない。戦争ほど悲惨なものはない。一部の愚かな指導者によって勃発する戦争には、多くの尊い生命が犠牲となってしまうのだ。

日本の歴史を振り返ってみても、戦国時代をはじめ権力闘争に明け暮れたといっても過言ではない。歴史の変わり目には必ずと言っていいほど、愚かな戦争が繰り返されてきた。そうした歴史上で最悪の結果となったのが太平洋戦争であった。日本人の犠牲者は約 330 万人。その内非戦闘員の死者は約 110 万人。負傷者は数知れず。



雪が残る新潟県長岡市にある山本五十六(大日本帝国海軍軍人)の生家のある公園を訪ねた。1904(明治17)年生まれ。若き日より文武両道、質実剛健、常在戦場の人生を歩む。日露戦争にて重傷を負う。海軍大学卒。35歳の時に2年余りアメリカ・ハーバード大学に留学している。アメリカの油田や自動車産業、飛行機産業そして食料等、日本と比較して全てに渡って圧倒的な物量の差を誰よりも知っていた。故にアメリカと戦争して勝てないことも知っていたであろう。しかしその意に反して彼は太平洋戦争開戦となった真珠湾攻撃の連合艦隊司令長官となる。1943(昭和18)年4月18日、南太平洋の前線視察中に米軍機に搭乗機を撃墜され戦死。59歳の生涯。もし戦争のない時代に生まれていれば偉大なる政治家に、そして日本の発展に貢献するリーダーになっていたに違いない。

撮影 2013年春

